

社会

東日

地元産業と伝統 体感

田原・若戸小 全校児童が地引き網やイチゴ狩り体験
春の遠足

田原市立若戸小学校（小林琢校長）の全校児童79人が20日、春の遠足で、校区に受け継がれている地引き網と観光農園のイチゴ狩りを体験し、地元の自然や産業に触れた。
（中村晋也）

地域を愛する心を育てようなどの目的で、校区の特色を生かした遠足を企画。児童たちは、六つの縦割り班で学校を歩いて出発した。

地引き網は赤羽根漁港に近い池尻町の表浜海岸。地元の人元、大野晶寛さん（61）と仲間、若戸校区コミュニティ協議会の協力で網を出した。

初夏を思わせる日差しと心地いい潮風の下、児童たちは波打ち際で「ワッショイ」の掛け声とともに

に重たい網を引いた。コノシロなどがたくさん獲（と）れ、魚を手づかみにして笑顔を見せた。児童たちは「みんなで網を引くのが楽しかった」と声を弾ませた。

かつては、半農半漁の地域で地引き網が盛んだった。網元が高齢化した際に「なくしてはならない大事な地引き網」と、網元を受け継いだ大野さん。「授業とは違う体験ができ、よかったのでは」と話した。
イチゴ狩りは、観

光農園「マルカ農園」（池尻町）で行われ、児童らは香りが広がる温室内で摘み取った。「何もつけないで、そのままでも甘い」「いっぱい食べた」と喜んで



網を一生懸命に引く児童たち（田原市池尻町で）